

ロッテ創業者の長女を逮捕 泥沼内紛、日本にも飛び火？〈週刊朝日〉 | dot.ドット



今年3月のロッテ免税店銀座の開業記念式典。韓国ロッテグループの重光昭夫会長らが出席した (c)朝日新聞社

拡大

ロッテグループの創業者、重光武雄(韓国名・辛格浩)総括会長(93)の長女、辛英子・ロッテ奨学財団理事長(74)が7日、背任収財と横領の疑いでソウル中央地検に逮捕された。

辛理事長は、武雄総括会長の最初の妻との間の娘。名門・梨花女子大卒業後、ホテルロッテへ入社した。ロッテ百貨店やロッテショッピングなどを成長させ、韓国では「流通の母」とも呼ばれた。

武雄総括会長の寵愛を受けたことでも知られていた。今回は、ロッテ免税店への出店便宜を図るよう業者から30億ウォン(約2億7千万円)を受け取った疑いのほか、実質的に経営する会社から40億ウォン(約3億6千万円)を横領した疑いが持たれている。逮捕状を前に、「私がどうして逮捕されるの」と猛反発した、と伝えられた。

ソウル中央地検は6月10日から、不正資金疑惑の捜査に着手していた。200人あまりの捜査員が投入され、韓国では「異例の捜査」と騒がれている。韓国の全国紙記者はこう話す。

「韓国ロッテグループの政策本部とホテルロッテ本社、そして重光昭夫(韓国名・辛東彬)会長の執務室と自宅まで家宅捜索した。昭夫会長にねらいを置いているため、とみられている」

ロッテといえば、昨年7月にお家騒動が発覚した。

武雄総括会長と長男の重光宏之(韓国名・辛東柱、62)ロッテHD前副会長側と、次男の昭夫会長との間に対立が生まれた。その後の株主総会は昭夫会長が勝利。しかし、宏之前副会長が昨年12月に再び、昭夫会長を業務妨害と財物隠匿の疑いで、ソウル中央地検に告訴した。

「このときに提出された会計帳簿が、今回の捜査の重要資料になっているようだ」(前出の記者)

辛理事長は当初は宏之前副会長側についたが、今年3月には昭夫会長支持の動きを見せた。辛理事長は任期満了だったホテルロッテの取締役の座を確保し、多額の報酬(2014年は31億ウォン＝約2億8千万円)も維持するとみられた。

格差に敏感に反応する韓国社会では「何千億ウォンも保有する金持ちが、あまりにも貪欲だ」「財閥5位の創業者は子供にどんな教育をしていたのか」などと非難が噴出している。

「朴政権は4月の総選挙での与党惨敗後、レームダック。一連の捜査は、それを少しでも緩和するためだ。また、政敵の李明博前大統領時代の、123階建てロッテワールドタワーの建設許可を巡る疑惑に焦点を当て、李前大統領の側近をねらったものともいわれる」（別の韓国全国紙記者）

宏之前副会長は異母姉の逮捕に対し、遺憾の念と現在の経営体制を批判するリリースを即日に出した。

武雄総括会長と昭夫会長が出国禁止となり、昭夫会長の右腕といわれるグループ系列社代表の日本人にも捜査が入るともいわれる。ロッテの捜査は始まったばかりだ。（本誌・鳴澤 大、太田サトル、山内リカ、秦 正理、吉崎洋夫／岸本貞司、韓国在住ジャーナリスト・菅野朋子）

※[週刊朝日](#) 2016年7月22日号